

第 21 回日本熱帯生態学会年次大会(沖縄)
講演要旨集

Proceedings of the 21 Annual Meeting of
the Japan Society of Tropical Ecology in Okinawa 2011

公開シンポジウム
「沖縄のヤンバルやサンゴ礁の自然を考えると」



新緑の山原の森 (撮影: 湊和雄)

2011年5月27日～5月29日

沖縄県男女共同参画センター「ているる」

日本熱帯生態学会
The Japan Society of Tropical Ecology

東ブータンの Brokpa と Monpa に関する調査ノート
 —アルナーチャルプラデシュとの比較の視点から—
 安藤和雄 1、宮本真二 2、大西信弘 3

1:京都大学東南アジア研究所、2:琵琶湖博物館、3:京都学園大学バイオ環境学部

Survey Note on Brokpa and Monpa in East Bhutan: From Views of Comparison with Arunachal Pradesh
 Kazuo Ando¹, Shinji Miyamoto², Nobuhiro Ohnishi³

1: CSEAS, Kyoto University 2: Lake Biwa Museum, 3: Bioenvironmental Science Kyoto Gakuen University

キーワード Key words : Brokpa, Monpa, Bhutan, Arunachal Pradesh

1. 問題の背景、目的、調査方法 インド・アルナーチャルプラデシュ州の Tawang 県、West Kameng 県にはチベット・ビルマ語派の言語を話す民族である Brokpa と Monpa が住んでいる(Fig 1)。第 20 回年次大会で報告したように、アルナーチャルラデシュでは、Bro が牧草地での放牧を意味することから、Brokpa を牧畜民として、民族的には Monpa と同じであるとされている。Monpa には農耕民であり Unpa とも呼ばれている。農耕民は標高 2500m から 1800m にかけての定住村をつくっているが、牧畜民である Brokpa は定住集落をもつが、基本的な生業は夏の標高 4000m の高所の夏の草地から標高 2000m 近くの冬の草地を季節的に移動して Yak、や Yak と一般の牛との交配種である雄の Zo、雌の Zomo を主に飼育する。搾乳により、チーズ、バターの生産を行い、農耕民がつくる米、トウモロコシなどと物々交換している。筆者らは、2010 年 9 月に West Kameng 県の標高 3500m 地点でテントを張り、県保健局とともに Brokpa にたいして健康診断キャンプを実施した。この時、ブータンとインドとの国境近くの標高 4000m の草地で、東ブータンの Sakteng から来ていた Brokpa の人たちに会った。このことを契機として、11 月に安藤と宮本は Brokpa が多数住む東ブータンの Merak、Sakteng でトレッキングによる予備的調査を行った(Fig1)。また、



Fig 1 Study Area

2011 年 2 月には West Kameng 県の Brokpa の Lubrang 村において健康診断キャンプを実施した。これに安藤と宮本が参加した。Monpa に関する民族誌は数冊出版されているが、Brokpa については、いまだ成書は一冊のみが出版されている。私たちは、両地域の違いを端緒に Brokpa の人々の生活向上のための条件について検討を加えた。本報告作成にあたっては、Ranhubir Chand 2004 Brokpa s :The Hidden Highlanders in Bhutan. Pahar Pothi.と ブータン王立大学セルブツェ・カレジの地理学科の Merak, Sakteng での課題調査実習成果報告書を参照した。また、本報告は、2011 年 2 月 9 日に West Kameng 県の Dirang にある国立 Yak 研究所で開催された Health and Development among Highlanders in Arunachal Pradesh, India の国際ワークショップ(総合地球環境学研究所 高所プロジェクト 奥宮清人代表と West Kameng 県保健局共催)で安藤が行った発表を加筆修正した。

2. 結果と考察 West Kameng 県と Merak, Sakteng の Brokpa は暮らし方、生業において大きく変わることがないが、Merak と Sakteng の伝承によれば、Brokpa が東ヒマラヤのブータンとアルナーチャルプラデシュに移住したのは 7 世紀頃だと言われている。ラサの南の Tsona から、女神 Ama Jomo のお告げにしたがい、チベット仏教僧 Jarappa に導かれ Tawang へ、そして Jang を経由して Sakteng へ到着し、ここを出発し、一つグループが Merak へ、もう一つが Lubrang へと移動したと言われる(ただし Lubrang ではこの伝承は聞いていない)(Fig 1)。農耕民である West Kameng の先住民である Monpa や、Tashigang の Sherchokpa とは生業とともに言語も異なっているという。また、Tawang から紀元数世紀に Tashigang の Chaling 村に移住してきた伝承をもつ Monpa にも会った。アルナーチャルプラデシュ政府は Brokpa と Monpa を同じ民族としているが、ブータンでは異なった民族として認めている。Sakteng と Merak は末端の行政単位である Geo となっている。したがって、医療、保健をはじめ行政サービスや小学校、寺なども整備されている。一方、West Kameng 県では Lubrang がもっとも大きい集落であると言われているが、末端の行政単位ではない。ブータンとアルナーチャルプラデシュでは Brokpa の文化、行政的な位置が明白に異なっている。インド独立以前、Merak, Sakteng, West Kameng も Twang を通じてチベットに治められていた。その名残もあり、両地域は現在でも経済的には密接な関係を持っている。両地域の発展は、この国境を越えたネットワークが将来ともに維持されていくことにある。また今回の Lubrang 調査で、高所に住む Brokpa でも人によっては Raduk と呼ばれる急性高山病に似た症状があらわれていることがわかった。発表では、アルナーチャルプラデシュでの見聞を比較しつつ、東ブータンでの Brokpa の生業や Monpa, Sherchokpa の農具に関する見聞を中心に報告する。

第 21 回日本熱帯生態学会年次大会（沖繩）

講演要旨集

発行日：2011 年 5 月 27 日

発 行：第 21 回日本熱帯生態学会年次大会実行委員会

大会事務局（JASTE21 事務局）

〒903-0123 沖縄県西原町千原 1 番地

琉球大学農学部造林学研究室（谷口研究室）

E-mail: jaste21@w3.u-ryukyu.ac.jp

年次大会実行委員長：馬場繁幸

年次大会事務局長：谷口真吾

印刷製本：有限会社金城印刷